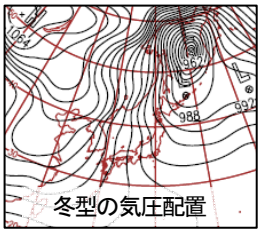
2018 年 12 月

気象と気象用語

松山地方気象台

【12 月の気象】



冬型の気圧配置

- 12 月に入るとシベリア高気圧が勢力を強め、アリューシャン低気圧が発達し、西高東低の冬型の気圧配置となることが多くなります。このとき、季節風が強まり、日本海側では雪や雨となる一方、太平洋側では晴れて空気が乾燥します。愛媛県では、全般に乾燥・晴天となりますが、寒気の影響で雲が多く、山地では雨や雪の降る所があります。
- 冬型の気圧配置が強まる場合は、北西の強風、大雪や低温による寒害に注意が必要です。
- 北西の季節風が関門海峡から流れ込むと、山間部を中心に雨や雪の天気となり、平地でも大雪となることがあります。
- 大雪の一方で、12 月に大雨災害が発生することがあります。2015 年 12 月 11 日未明に四国を通過した低気圧に伴う大雨によって、県内では、家屋の浸水、土砂崩れの被害が発生しました。

【気象用語】「エルニーニョ現象」とは

「エルニーニョ現象」とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて、海面水温が平年より高い状態が半年から 1 年半ほど続く現象です。これとは逆に「ラニーニャ現象」は、同じ海域で海面水温が平年より低くなり、その状態が続く現象で、それぞれ数年おきに発生します。

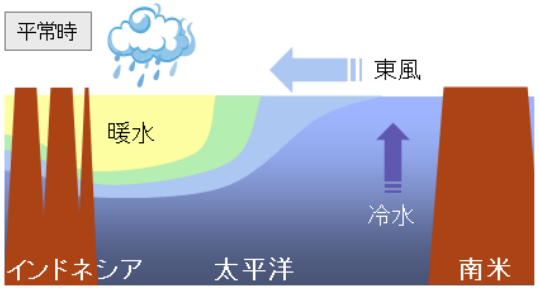
今年（2018 年）の 1 月から 2 月上旬は、県内の複数の観測地点において最低気温の極値を更新し、大雪もあって、記録的な寒さとなりました。その背景には、2017 年秋から春にかけて発生したラニーニャ現象がありました。では、今期の冬はどのような天候となるのでしょうか。

11 月 9 日、気象庁は**「エルニーニョ現象が発生したとみられる」「今後春にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い」**と発表しました。

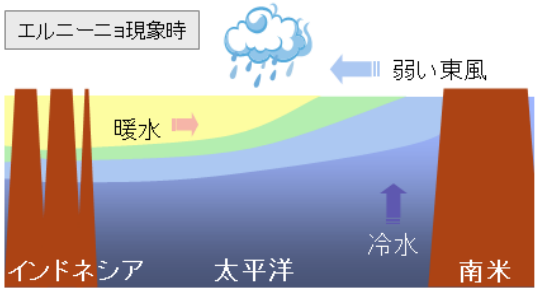
エルニーニョ現象が発生すると、インドネシア近海など西太平洋熱帯域では、海面水温が低下し、積乱雲の活動が弱まります。このため日本付近では、夏季は太平洋高気圧の張り出しが弱くなり、気温が低く、日照時間が少なくなる傾向があります。冬季は西高東低の気圧配置が弱まり、気温が高くなる傾向があります。

9 月 25 日発表の寒候期予報や 10 月 24 日発表の 3 か月予報でも、この冬は気温が高い予想で、暖冬となる可能性は高いと考えられます。しかし、忘れてならないのは、たとえ暖冬でも数回は強い寒気が流れ込み、ときには大雪となる場合もあることです。

エルニーニョ／ラニーニャ現象の発生状況や予測は、毎月 10 日頃に発表する「エルニーニョ監視速報」でご確認ください。また、気温に関しては、季節予報、週間予報、日々の天気予報のほか、「長期間の低温に関する愛媛県気象情報」や「低温に関する異常天候早期警戒情報」の発表に留意し、農業被害の防止・軽減にお役立てください。



太平洋熱帯域では東風（貿易風）が常に吹いており、海面付近の暖かい海水が西へ吹き寄せられている。このため、インドネシア近海では暖かい海水が蓄積している。一方、南米沖では冷たい海水が海面近くに湧き上っている。その結果、海面水温は太平洋赤道域の西部で高く、東部で低くなっている。



エルニーニョ現象が発生するとき、東風（貿易風）が平常よりも弱まり、インドネシア近海に蓄積されていた暖かい海水が東へ広がる。一方、南米沖では冷たい水の湧き上りが弱まる。このため、太平洋赤道域の中部から東部では、海面水温が平常時よりも高くなる。その結果、積乱雲が多く発生する海域は東へ移る。

エルニーニョ/ラニーニャ現象に関してはこちらをご覧ください→ https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/elnino/